

令和6年度 高清水園（東棟）・たかしみず園（西棟） 地域連携推進会議議事録

実施日時	令和6年11月11日 ( 月 )	司会者	支援課係長 (たかしみず園)
	13時00分～14時50分	記録者	支援課主査 (高清水園・たかしみず園)

出席者

【施設職員】8名  
園長、管理課長、支援課長、地域支援課長、支援係長2名（東棟・西棟）、  
統括主査（西棟）、主査2名（東棟・西棟）

【構成員】6名  
利用者代表・・・2名（東棟利用者・西棟利用者）  
利用者家族代表・・・1名（親の会会長）  
地域関係者・・・2名（A.隣接病院事務局長）（B.地区社会福祉協議会会長）  
福祉関係（知見）者・・・1名（就労継続支援B型事業所 サービス管理責任者）  
※地域関係者①は都合により欠席し、事務次長が代理出席する。

協 議 内 容	1. 園長挨拶
	・地域の方との関係作り、施設や利用者への理解の促進、更なる支援サービスの向上のため忌憚のない意見をいただきたい。
	・法人ならびに施設の概要等の説明を行った。
	2. 施設職員及び構成員の紹介
	3. 議題
	①施設等・地域の連携
	<利用者の障がい状況等について>・・・支援課長
	・利用者の概況（年齢別利用者数/入所期間別利用者数/重複障害/障害者手帳保有者数/障害基礎年金/障害支援区分/外部事業所利用状況）、利用者の障害・疾病状況、利用者の服薬状況の説明を行った。
	<近隣からの苦情等について>・・・支援課長
	・年に2回、苦情処理解決委員会を開催しており、今年度の苦情は0件であった。
	・昨年度は一つの事案に関して2件の苦情があり、苦情解決担当者2名が対応し滞りなく解決している。

協 議	<p>&lt;施設、地域行事について（情報交換）&gt;・・・支援課長</p> <p>・施設の行事等について説明し、地域行事についても情報交換を行った。</p> <p>【地域関係者Aより】</p> <p>日赤看護大学・短期大学では9月23日に学園祭と秋田さきがけ新報社主催の防災キャンプフェスを同時開催し、サークルイベントやタレントを招いてトークショーを行うなど防災キャンプフェスの一部として実施することができた。学園祭単体では開催が難しかったが、秋田さきがけ新報社の方から来年の開催についての要望もあったことから、来年も引き続き同時開催で行っていく予定である。</p> <p>【地域関係者Bより】</p> <p>現在、上北手地区では人口が減っており、町内会維持が困難な状態の限界集落となっていることから、地域全体でのお祭りは行えていない状況である。</p> <p>【福祉関係者より】</p> <p>サンハウスではコロナ以降、行事については利用者同士の内々での行事になっている状況である。以前は地域を交えて夏祭り等行っていたが、今後どのタイミングで元に戻していけるのか、考えているところである。</p>
	<p>②施設等やサービスの透明性・質の確保</p>
	<p>&lt;自己評価について&gt;・・・東棟係長</p> <p>・自己評価の概要と高清水園での今年度の取り組む課題について説明を行った。</p>
	<p>&lt;利用者の日常生活の様子について&gt;・・・東棟主査・西棟主査</p> <p>・高清水園利用者（東棟利用者）と、たかしみず園利用者（西棟利用者）の日常生活の様子について、それぞれ説明を行った。</p>
	<p>&lt;経営状況の報告について&gt;・・・管理課長</p> <p>・高清水園の令和5年度資金収支計算書と令和6年度月別収支状況報告書について説明を行った。</p>
	<p>&lt;BCP（事業継続計画）の策定状況について&gt;・・・管理課長</p> <p>・BCPは法令で作成が義務化されており、作成しなければ減算されることになる。</p>
	<p>内容</p>

協	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービスごとに作成が求められており、高清水園では本体事業、相談支援事業、グループホームの3つについてBCPを作成している。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高清水園」と「たかしみず園」の特徴として、0.5から3メートルの浸水想定区域として指定されている立地条件の面からBCPだけではなく、水防法に基づく洪水時避難確保計画の2本立てでリスクマネジメントしている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨による洪水被害発生における臨時的避難場所の提供等に関する協定について説明を行った。</li> </ul>
	③利用者の権利擁護
	<虐待防止について>・・・西棟係長
	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度 第1回虐待防止チェックリストの結果と、その結果を踏まえて実施した全体各部署の取組み（チェックリスト）について説明を行った。</li> </ul>
議	
	<ヒヤリハット（事故）報告について>・・・西棟主査
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒヤリハットにおける園での取組みを説明し、令和6年度ヒヤリ・ハット（事故）報告上半期（4月～9月）基礎集計の報告を行った。</li> </ul>
	<支援者の様子について>・・・西棟係長
	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員1名につき利用者1～3名ほど担当しており、両棟の係長がサービス管理責任者として業務にあたっている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設職員には以前にホームセンター従業員、ホテルマン、建設業従事者、保育士などいろんな経験を積んできた方が、それらの経験を活かして働いており、園の強みとなっている。</li> </ul>
内	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援現場においては毎年、ストレスチェックを全職員が実施し、結果によっては医師との面談等を受けられる体制を整えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月、動画視聴研修（スペシャルラーニング）を行い課長や係長へWEB上でレポートを提出し、その内容についてフィードバックを受けている。その際に仕事上の悩みや相談を受けることがあり、労をねぎらったり助言をしながら配慮にも心掛けている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員間のチームワークは概ね良好であるが、人間関係上の悩みやトラブルには、寮長</li> </ul>
容	



協	たい。また、意思確認の難しい方が多いので、今後どうなっていくのかといった思い
	がある。
	収支報告について、少額の収支について不足が出た場合、どう処理されるのか？
	【管理課長より】
	3次補正まで対応し、適宜補正している。
	【地域関係者Aより】
	組織としてうまく取り組まれていると感じた。学園本部での内部監査では高清水園と
	の合同避難訓練を高く評価された。今後も協力して行いたい。
	【地域関係者Bより】
	「高清水園」と「たかしみず園」は区別されているが、事業内容は同じ認識でよろし
議	いのか？
	【園長より】
	事業内容は同じです。
	【地域関係者Bより】
	利用者の高齢化が進むと高清水園は終の棲家となるのか？
	【園長より】
	高齢化により医療ケアが進んだ場合、本人の状況にあった施設への移行も考えていかな
	ければならないと感じている。
	【地域関係者Bより】
	ヒヤリ・ハットについて積極的に取り組んでいくことは良いと感じた。重大なことにな
内	らないうちに対応していくことは有意義なことであると感じた。
	また、地域との繋がりについてはコロナ以降、理解を深めるのは中々難しい状況にある
	と感じている。
	【福祉関係者より】
	ヒヤリ・ハットの資料を見て風通しの良さを感じた。良いところは言いやすいが、悪い
	ところは言いづらいと思われる。しかし、そういったものをしっかり資料として上げて
	おり、喋られる環境が出来ていると感じた。
	食事については温かいものが食べられるのは良いと感じた。食材などの物価高騰により
	自己負担の部分が大きくなっているのかと思われるが、その部分では負担が重くならな
	容

協	いよう何か取り組まれているのか？
	【園長より】
	費用で多くなった部分については予算化して対応し、利用者よりその部分について直接費用の徴収はしていない。
	【福祉関係者より】
	行事等での特別食についても差額分を負担してもらってはいないのか？
	【管理課長より】
	3食の食事費用は税込み880円であり差額では赤字となっている。行事食については単価も上がるが、その差額については事業所の公費で負担し、教養娯楽費や親の会から協力を得るなどしながら対応している。
	【福祉関係者より】
	待機者については現在どのくらいいるのか？
	【支援課長より】
議	現在30名弱の待機者おり、3/4が秋田市の方である。しかし、入所についてはなかなかスムーズにはいかない状況にあり、待機者名簿による優先順位も虐待等による緊急時受け入れが当然優先になってしまう状況である。
	5. その他
	<園長より>
	今日はありがとうございました。今回の会議については高清水園として質の透明性、ヒヤリ・ハット、虐待防止の取り組み、自己評価等、どこの業界でもやっていることを全て皆さんにお知らせしていく、オープンにしていく、これが一つの目的であります。併せて地域の中での繋がりも取り組まなくてはならない。そうした中で声をかけて頂くこと、非常にありがたいと感じております。ちょっとした挨拶、声かけをして頂いて地域との付き合いを大切にしていきたいと思っております。どうか宜しくお願い致します。
容	以上